

武漢事務所週間ニュース 28号 (2011年10月22日～10月28日)

47回国際都市計画大会が武漢で開幕

世界中の名だたる都市計画の専門家が武漢市に集まる

長江日報 2011年10月26日

昨日、「第47回国際都市計画大会」が武漢にある琴台大劇院にて盛大に開幕した。

国内外の都市計画の専門家及び管理部門の代表者、計2,000人あまりの人が大会に参加した。

国際都市計画大会は世界的なキャリアを持っている都市計画の専門家の団体で、国際都市及び地区の都市計画の専門家の学会であり、毎年1回開催されている。毎年、違うテーマについて違う国で行われる。今回のテーマは「住み心地のよいまち：グローバル都市に変貌するにあたり必要な、新たなる挑戦」である。今回の大会は国際都市と地域の都市計画専門家学会が成立されて47年間で、2度目の中国開催である。2009年、武漢市の新しい都市マスタープランは第45回国際都市計画大会にて「世界優秀貢献賞」を授与しており、国際都市計画学会の注目を浴びている。

国際都市及び地域の都市計画専門家学会主席 イスマエル・フェルナンデス・メホ氏、ケニア住宅建設部部長 イタ・シタンダー氏、全国政治協商常任委員会、民主建国会中央副主席 王少階氏、湖北省副省長 張通氏、武漢市長 唐良智氏が開幕式に出席し、それぞれ挨拶を述べた。国家住宅及び都市と農村建設部部長 姜偉新が祝辞を述べた。武漢市幹部 肖常谷、孫亜、石大鴻が開幕式に出席した。

開幕式の前、唐良智はケニア住宅建設部部長イタ・シタンダー一行と会見を行った。

開幕式の後、香港、オランダ、フィリピンの3人の専門家はそれぞれ都市計画の現場の最先端について報告を行った。世界各地の若い計画専門家は楊春湖区域の「高速鉄道を中心とした都市づくり」の設計概念を展示した。併せて、「武漢都市計画杯」大学生都市計画設計コンペティションの結果を発表した。

本日の午前、大会は見所の一つである武漢都市計画公開研究討論会を行った。世界各地の都市計画の専門家が、武漢の現状を踏まえ、武漢の急速な都市化の過程における住み心地の良い都市建設を実現する都市計画及び戦略について討論した。その他、都市計画の専門家は低炭素都市、交通システムなど5つのテーマについてのフォーラムを行った。

武漢市政府が行政不服審査委員会における学者、弁護士の比率を3分の1以上にする

長江日報 2011年10月22日

学者や弁護士等の能力を十分に活かし、行政不服審査についての処理の質及び効率向上、行政不服審査委員会の信用性の向上を図るため、昨日、武漢市は行政不服審査委員会を成立させた。

このことは、武漢市のイノベーション社会を管理するにあたり、重要なことであるといえる。委員会は武漢市政府における処理が難しい行政不服審査に関する案件を決議する機関で、武漢市に関するもののうち、処理が難しく、複雑で、社会の影響面からみて比較的大きな案件及び、行政不服審査に関する議案の審査、議決を役割とする。

28人の委員のうち、大学や法律事務所の法学教授及び弁護士は10名おり、委員の3分の1を超えている。

委員会の下には市政府法制弁公室行政不服審査事務所があり、行政不服審査案件の受付、審査、調査・取調べ、証人尋問、議決などの事務を行う。委員会は不定期に委員会を開催し、毎回少なくとも7名の委員が参加している。

行政不服審査とは、市民、法人及びその他の組織が行政の具体的な行政行為に対し不服な場合、法律により定められる機関に申請し、行政不服審査に関する機関がその行為の合法性、妥当性を審査し、決定する行政行為を言う。行政不服審査は国際的に一般的な行政争議及び社会の矛盾を解決する法律的な道筋である。

2007年から2010年にかけて、武漢市の行政不服に関する申請は2,041あり、1769件受理している。行政不服審査をスムーズにするため、武漢市法制弁公室行政区及び市の方を扱う部門は全てインターネット上で申請を受付けている。行政不服審査に関する審査数と取り扱う案件は増加している。